

(様式2)

令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和5年1月20日

国際交流推進センター長 殿

事業責任者(申請者)

所 属 芸術地域デザイン学部

職 名 准教授

氏 名 藤井 康隆

下記のとおり令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業の実施結果について報告します。

1.国際研究集会名	博物館と文化芸術青年学者交流会		
2.事業責任者 (申請者)	藤井 康隆	3.所属・職名	芸術地域デザイン学部 准教授
4.開催期間	令和 4年 6月 17日 ~ 令和 年 月 日		
5.申請区分	A) 学術交流協定(大学名) B) 共同研究 <b>C) 一般</b>		
6.参加者数 ※参加者名簿(別添) を添付	参加者数 12名 内、外国人数 3名、研究者数 2名、 学部学生数 9名、修士以上学生数 1名		
7.招待講師	所 属 南京博物院 職 名 研究館員 氏 名 左 駿		
8.支出額	金 額 39,600 円 【内訳】 謝金 円 旅費 円 消耗品費 39,600 円		
9.国際研究集会の内容	佐賀大学学部生8名が自主的なディスカッションを通して展覧会企画を作り、展示テーマは「化粧品を通しておもう中国と日本(仮題)」として、中国の博物館や研究者との学術交流に資するテーマとした。中国側からは南京博物院の左駿氏から、同氏が企画した最新の特別展について企画構想や、並行公開したフルデジタルによる同展のオンライン展について、詳しい報告があった。また、湖南師範大学考古学・博物		

館学専業の学部生である張景昱氏は、今後の時代の博物館事業としてオンライン展覧会やデジタルアーカイブの構築・公開についてきわめて積極的な考えを提起した。

《発表内容》

佐賀大学学部生：「展覧会企画『化粧を通しておもう中国と日本』」

張 景昱（湖南師範大学）：「新型コロナ時代の博物館の新たな展示方法」

左 駿, 高 波（南京博物院）：「“求真”と“物実”を創造する博物館の物語空間—特別展『中茲神州—絢爛たる唐代洛陽城—』における実践」

#### 10.事業実施による成果・今後の事業の発展等

本交流会はごく小規模な開催ではあったが、最新の研究成果に触れ、また本学学生の展示企画案に対して左駿氏から講評と激励をいただくことができ、非常に刺激的な機会となった。近年、国内外で展示、研究、ミュージアム・マネジメントなどの分野で努力と探求を不断に続けているミュージアムは少なくないが、その中で数々の先駆的な取り組みをし目を見張る発展をしているのが中国や台湾のミュージアムである。このたび、中国の博物館研究との学術・教育交流をおこなえたことは、博物館研究の学問体系をより豊かにする良い機会となった。将来的にはこの交流を定期的で開催するとともに規模を拡大し、多くの学者やミュージアム関係者、学生がが集う場にしたいと考えている。

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。